

# 大学の強みは ココを見る

大学ごとに異なる「強み」を押さえて、子どもが主体的に学び、成長していくために必要な支援制度や取り組みがあるかを見極めましょう。

## 大学の「強み」を見極めるポイントを知る

— 学び、グローバル、就職、資格、奨学金または納付金、入試



**偏差値や知名度だけが  
大学選びの指標じゃない**

偏差値、就職率、奨学金——大学選びにはさまざまな基準がありますが、子どもの将来に関わる志望校選びを、偏差値や知名度で何となく決めてしまっていないですか？ 保護者の言動は、子どもの志望校選びに大きな影響を与えます。子どもに適切なアドバイスができるよう、大学の強みや見るべきポイントを押さえておきましょう。

大学を調べるにあたってまず知っておきたいことは、現在の大学の数は保護者世代が高校生だった頃に比べて大きく増加しているということです。文部科学省の学校基本調査によると、大学数は1990年の507校から、2019年には786校に増えていきます（4年制、6年制の大学の場合）。子どもが進路の候補として挙げた大学を保護者が知らない、というケースも少なくないでしょう。

「今の大学選びは昔と異なる」ということを念頭に置き、できるだけたくさん大学の大学を研究するとよいでしょう。すでに多くの大学を知っている場合は、学びの内容や就職支援、奨学金制度など、大学独自の特徴に注目しましょう。

# 「大学の強みはココを見る」は ココを見る！

次のページから「個別大学レポート」が始まります。  
それぞれの大学の強みを調べるための6つのキーワードを紹介するので  
具体的に確認するようにしましょう。



## 【学び】

主体的に学ぶ姿勢を育む  
支援制度やカリキュラム

大学で求められるのは「主体的に学ぶ姿勢」です。その姿勢を育む支援制度、フィールドワークや課題解決型学習（PBL）などを取り入れた授業などがあります。子どもに合った支援や授業があるかどうかを確認しましょう。



## 【グローバル】

異なる文化や価値観を理解し、  
国際社会で活躍できる力を育む

急速に進むグローバル化に対応するため、多くの大学では国際的に活躍できる人材の育成に力を入れています。例えば、充実した留学制度、外国人教員や外国人留学生の受け入れなどです。語学力はもちろん、異なる文化や価値観を理解し、養うことも重要です。



## 【就職】

大学卒業後、子どもが  
望むキャリアを築くために

どのような仕事に就き、どんな人生を歩んでいきたいか。子どもが自らキャリアデザインを描き、社会に出る準備ができるよう、どんな就職支援やキャリア教育を行っているのか。具体的な内容を確認しましょう。



## 【資格】<sup>※</sup>

社会にアピールできるスキルや  
各種資格を取得する

資格が就職活動のアピール材料になることがあります。公務員試験や簿記検定、情報処理技術者などの対策講座を開講している大学は数多くあります。具体的な種類とサポート内容はもちろん、併せて就職実績や資格の合格実績を確認することも重要です。



## 【奨学金または納付金】

大学ごとに用意されている  
経済支援制度

日本学生支援機構以外にも、大学独自の奨学金があります。大学進学後に家計の急変などにより、学費の支払いが困難になることも考えられます。経済支援制度は「もしも」のときの修学の継続にも役立ちます。



## 【入試】

新大学入試の内容を調べる

2021年度入試からは、これからの時代に求められる資質・能力（学力の3要素）を一般選抜においても、多面的・総合的に評価するなど、大きく変わります。各大学が実施する入試の内容を調べておきましょう。

<sup>※</sup>心理職初の国家資格である「公認心理師」になるには、受験資格の取得が必要です。大学の学部で指定された科目を履修のうえ卒業し、指定された科目を開講する大学院に進むか、省令で定めるプログラムを持つ施設で2年間の実務に就いた人に受験資格が与えられます。